

マへ 惣構。

ソウカン 宗祖 ↓ タイシツソウカン 太室宗祖。

ソウガンアブミ 象眼鏡 加賀象眼は金銀銅の地のみならず、鐵を地金としても亦盛に施された。それが鏡に應用せられたものを象眼鏡と稱する。

ソウガンシ 象眼師 加賀藩では辻・勝木・小市・國永諸工の如き、鏡その他の鐵象眼を職とするものを象眼師といひ、初は金銀銅で刀劍若しくは裝身具を造る白銀師と截然區別せられてゐた。金澤の城下に象眼町と白銀町とがあるのは是に因る。象眼師は鏡象眼師の略語で、白銀師とても象眼を造らぬことはない。後には互に混同して、白銀師の名を以て汎稱せられた。

ソウガンチヨウ 象眼町 金澤の町名。寛文十年の九十歳者書上帳に、象眼町日用取甚七郎の事を記載し、元禄三年の火災記等には皆象眼町とあつて、ザウガン町と呼んだのを、後呼び誤つて世人ザウガネ町といふことになつた。昔時象眼師達の邸地を賜はつた所であらう。

ソウギ 宗祇 ↓ イヒソウギ 飯屋宗祇。

ソウキユウ 蒼虬 ↓ ナリタソウキユウ 成田蒼虬。

ソウキユウオウクシユウ 蒼虬翁句集 訂正と角書がある。二冊。京の俳人梅通編。蒼虬歿後五年目に、梅通が先師の句を集めて板行したものである。序は弘化丙午(三年)仲冬葵舍梅通、跋は伴水園芹舎。京平野屋茂兵衛板。又同じく訂正蒼虬翁句集と題し、二冊本で、梅通の序と芹舎の序を加へ、弘化四

年正月京山城屋佐兵衛等の板行もある。

ソウキユウオウハイカイシユウ 蒼虬翁俳諧集 二冊。芹舎の序と梅通の序とがある。弘化四年十月京山城屋佐助等板。

ソウキユウオウハイカイツケアヒシユウ 蒼虬翁俳諧附合集 二冊。半青居新甫編。東都青雲堂板。祖卿の稿本を新甫の訂正したもの。その自序に文久元甲子仲秋とあるが、文久元年ならば辛酉であり、甲子が正しければ元治元年であるべき筈である。

ソウキユウオウホツクシユウ 蒼虬翁句集 二冊。祖卿編。由發序。東都青雲堂板で、安政元年に成る。又別に一冊本があり、黙池の編するところ。自序及び素屋の跋が添へられ、慶應三年江戸須原屋茂兵衛等の出版に係る。

ソウキユウサイキヨウシユウ 蒼虬再歸郷集 一冊。天保四年可立稿本。文政十一年冬金澤の俳人蒼虬が二度目に京から歸つた際、門下の人々と興行した附合を集めたもので、巻末に關係者四十七人の俳名と本名とを記してある。

ソウキユウホツクシユウ 蒼虬發句集 増補筆中と角書がある。一冊。對塔庵蒼虬句集に故郷の作を増補したもので、金澤の俳人大夢の編する所。序は於平安僑居梅室、跋は嘉永壬子(五年)初秋加陽金城槐庵六世大夢。板元不明。後明治廿三年にも再刊されてゐる。

ソウキヨウジ 宗敬寺 石川郡示野に在つて、眞宗東派に屬する。初め金澤助九郎町に居たが、明治十九年四月今の地に移つた。ソウギヨクイダイクシユウ 雙玉題句集 一冊。成田蒼虬・櫻井梅室二人の發句を

類題別にして集めたものである。嘉永三年八月東都書林萬葉堂英大助・東國屋長五郎板。

ソウケイイン 曹溪院 加賀藩主第十代前田重教の子齊敬が寛政七年六月廿七日卒した後、假に江戸で稱した法號。その金澤に歸葬するに及んで觀樹院と改められた。

ソウケン 宗玄 珠洲郡直郷に屬する部落。元禄十四年の郷村名義抄に「此村先年は鶴島村の内にて御座候處、明暦二年に別村に相立、同村忠左衛門と申百姓家名を宗玄と申候に付、村名に龍成候由申候。」とある。又能登名跡志に「宗玄村に則ち宗玄忠左衛門といふ古き百姓あり。此者故あつて宗玄の名あり。同書に「宗玄村端に切通しというて、岩山を切抜きて往來する也。昔遙かの山を越えて往來せしを、御郡奉行に黒川五左衛門といふ人、此所を切抜きて往來安く成りしと也。」など、記する。

ソウケンジ 宗源寺 羽咋郡百浦に在つて、眞宗東派に屬する。

ソウケンジ 宗源寺 鳳至郡鹿波に在つて、曹洞宗に屬する。天文六年同郡川島の瑞源寺五代海雲の建てる所といふ。

ソウケンジ 曹源寺 珠洲郡長橋に在つて、曹洞宗に屬し、松岸旨淵を開山とする。

ソウケンシユ 宗玄酒 珠洲郡宗玄の忠左衛門家にて産する名醸で、その法を攝津伊丹に受け、三百年來之を造るといふ。ソウケンテキスイ 曹源酒水 石川郡曹洞宗大乘寺三十二代の住持。石見の人、神代氏。築を月舟宗胡に受け、法を平山道白に嗣いだ。嘗て能登千光寺に首衆となり、次いで永平寺に瑞世し、正徳五年九月大乘寺に入り開堂、

享保二年四月十一日東堂に於いて寂した。壽五十七。

ソウコウ 宗孝 ↓ ダイギソウコウ 大義宗孝。

ソウゴウ 草江 ヲウ 羽咋郡富木院にある部落。ソウコウジ 宗江寺 ↓ ソウリュウジ 宗龍寺。

ソウコウジマチ 宗江寺町 金澤の舊町名。元禄三年の火災記に古御指町・宗江寺町、同九年の地子町肝煎裁許附に宗江寺町・屋瀬町と見える。宗江寺の上、屋敷を地子地としたものであるが、今はこの町名がない。ソウコウシヨウサ 雙鉤招差 一冊。三好質直の著。分數函數の係數を求める算法である。本書の著作年代は不明であるが、凡そ弘化頃であらう。

ソウコクフドキ 戀國風土記 (一)古風土記の撰輯—元明天皇和銅六年五月、勅して畿内・七道の諸國郡郷に好字を著けしめ、その郡内生ずる所の銀銅彩色草木禽獸魚鳥等の物は具に色目を録し、及び土地の沃瘠、山川原野の名號所由、又古老の相傳舊聞異事を史籍に載せて言上せしめ、之を風土記と稱した。然るにその書風く散逸して、朝廷にも之を襲藏し給はなかつたから、延長三年十二月十四日大政官符を諸國司に發して之が探求を命ぜられたことがある。而して現に傳はるものは常陸・出雲・播磨・肥前・豊後の五國で、しかも出雲以外の完本でないことによつて見れば、延長探求の成績も略知るべく、初めから編輯の功を遂げなかつた國も、亦多かつたのであらう。職つて考へれば、和銅六年に於いては